

令和3年度 東浅草小学校授業改善推進プラン

○ 第2学年【国語科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより			
		平均点	
知識・技能		91.0	【知識・技能】 カタカナ・漢字は、正しく書いたり、読んだりができている児童が多い。しかし、かぎや句読点等を正しく使って文章を書くことが十分定着していない。
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	81.8	
	書くこと	89.6	
	読むこと	93.2	
【思考、判断、表現】 話すこと・聞くことのテストの平均点が81.8から、話を聞いて情報を整理し、整理した情報を活かすことができている児童がいる。また、自分の言葉を上手く整理して、相手に伝えることが難しい児童がいる。話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、話しの内容を捉えて感想をもつことに苦手意識がある。 書くことテストの平均点が89.6から、見付けたものの様子や特徴を文章にして書くことができる児童が多いが、見たものを言葉で表すことが苦手な児童もいる。 読むことテストの平均点が93.2から、文章の内容を聞かれている質問に対して、内容を読み取って解答できる児童が多い。			
【主体的に学習に取り組む態度】 漢字の学習にとっても意欲的である。一方、物語文では、主人公の気持ちに寄り添ったり、考えたりして音読ができる児童が多い。また、既習漢字を普段の作文や発表の様子から、活用して学習に取り組むことができていない児童も見られる。			



2 指導についての課題

【知識及び技能】 <ul style="list-style-type: none">・日常生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得できるようにする指導。・句読点の打ち方やかぎの使い方を正しく身に付けることができるよう、繰り返し読んだり、書いたりする指導。
【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none">・メモする、整理する、まとめる、聞いた情報を活用するための、段階的で具体的な指導。・相手や場面などに応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることができるための指導。
【学びに向かう力、人間性等】 <ul style="list-style-type: none">・学んだことやできるようになったことなどに気付き、今後の学びに生かしていこうとする姿勢を育てる指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none">・漢字やカタカナ、句読点やかぎに多く触れることができるような授業展開を計画する。・習熟が十分でない児童には、休み時間や放課後を利用して、復習に取り組ませる。
【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none">・聞くポイントや重要なところを特に集中して聞けるよう声掛けをする。・自分が考えたことを言葉にできない児童には、教師が例えたり、共感してあげたりして、自分の考えていることを言語化させる。・文章を正しく読んで理解できるよう、音読の仕方を意識した音読をさせる。
【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none">・既習の学習内容を確認し、活用できることを伝えて授業を展開する。

○ 第2学年【算数科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより									
評価の観点	グラフと表	たし算の筆算	ひき算の筆算	長さ	3けたの数	水のかさ	時刻と時間	平均点	
知識・技能	94.9	91.6	94.0	85.1	84.4	89.5	71.5	87.3	
思考・判断・表現		89.0	85.5	67.6	77.0	69.8	48.4	72.9	
・東京ベーシック・ドリル診断テスト（第1学年の内容） ※数値は%									
大問	大きな数	たし算	ひき算	3口の計算	式に表す	くらべめた(長さ・かさ)	時計	形	平均正答率
正答率	43.9	82.9	70.7	92.6	51.2	87.8	70.7	90.2	73.8

【知識・技能】「時刻と時間」に関して、東京ベーシック・ドリル診断テストの結果、単元テストと共に定着度が低い。時計を読むだけでなく、時間の計算が入ることで難易度が上がり、正答を得られない傾向が見られた。特に「〇〇の時刻の20分後の時刻」を求める問題、「午前10時から午後4時までいたとすると、何時間たったか」という問題を正確に求められない回答が目立った。また長さや水のかさについて、平均点の数値は低くないものの、単位を正しく選択し回答する問題について誤答が多かった。

【思考・判断・表現】知識・技能に比べて、全体的に平均点が低い。問題文をよく読まず、問われていることと違うことを答えている傾向が見られた。また、習った知識のうち、いくつかを活用して答えること、文章を図や式に表すことが苦手な児童が多い。

【主体的に学習に取り組む態度】各単元の学習内容は定着しているが、時間やものの長さ、水のかさの単位を日常生活に活用する、新しい学習で既習の内容を生かそうとする態度が身に付いていない児童も見られる。



2 指導についての課題

<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の充実を図る。 例:①時間を長さとしてとらえ、時間の量感を養うことができる指導。 ②単位(長さ・かさ)に関して、具体物を用い、実際に測ったり数えたりする指導。
<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章問題において、文章の読み取り方や図や式の表し方についての具体的な段階を追った指導。 ・かさや長さ、時間などを予測してから実際に計測する活動などを取り入れ、量を実感しながら捉える指導。
<p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中にある事象を扱ったり、学習内容の関連性を振り返ったりする活動を取り入れた指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素を視覚的に理解できるようにするために、デジタル教科書を活用する。 ・具体物や半具体物を使い、動かしたり操作したりする経験をさせて、学習の理解と定着を図る。 ・単元後も学習した内容の問題を継続的に解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高める。
<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を理解するために、分かっていること、問われていること、計算方法を決める言葉などを毎回識別させる。 ・自分の考えを説明する場面を積極的に設ける。発表や考えが書かれているノートの紹介を通じて、自分の考えを人に伝える方法に広く触れさせる。
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを明確にし、授業前の計算練習や学習のめあてを自分で見いだすことを通して、学習に向かう環境を整える。 ・今後の学習に生かす毎時間の振り返りを、単元の終わりにその単元で学んだ数学的な見方や考え方を振り返る。

